



設定マニュアル

RadiForce® RX570

カラー液晶モニター

重要

ご使用前には必ずこの設定マニュアルおよび取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。

- モニターの設置 / 接続については取扱説明書を参照してください。
- 設定マニュアルを含む最新の製品情報は、当社のWebサイトから確認できます。

www.eizo.co.jp

製品の仕様は販売地域により異なります。お買い求めの地域に合った言語の設定マニュアルをご確認ください。

-
1. 本書の著作権はEIZO株式会社に帰属します。本書の一部あるいは全部をEIZO株式会社からの事前の許諾を得ることなく転載することは固くお断りします。
 2. 本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
 3. 本書の内容については、万全を期して作成しましたが、万一誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
 4. この製品の使用を理由とする損害、逸失利益などの請求につきましては、上記にかかわらず、いかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
-

目次

1 基本の調整 / 設定	4
1.1 スイッチの操作方法.....	4
1.2 入力信号を切り替える	5
1.3 表示モード (CAL Switch Mode) を切り替える	6
1.3.1 CAL Switch Modeの種類.....	6
1.4 USBデバイス进行操作するコンピュータを切り替える	6
1.5 PinP子画面の表示 / 非表示を切り替える	7
2 詳細な調整 / 設定	8
2.1 設定メニューの基本操作方法	8
2.2 設定メニューの各機能	9
2.2.1 CAL Switch Mode	9
2.2.2 RadiCS SelfQC	12
2.2.3 本体設定	16
2.2.4 言語選択	20
2.2.5 インフォメーション	20
3 管理者向け設定	21
3.1 「管理者設定」メニューの基本操作方法	21
3.2 「管理者設定」メニューの各機能	21
4 こんなときは	24
4.1 画面が表示されない場合.....	24
4.2 画面に関する症状	25
4.3 その他の症状	26
4.4 エラーコード表.....	27
5 ご参考に	28
5.1 アーム取り付け方法.....	28
5.2 USBハブ機能の使用法	30
5.3 主な初期設定値.....	32
5.3.1 CAL Switch Mode	32
5.3.2 その他.....	32
付録	33
商標.....	33
ライセンス	33

1 基本の調整 / 設定

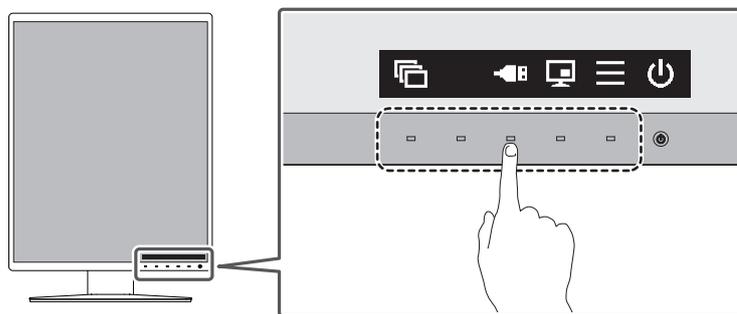
この章では、主にモニター前面のスイッチに触れることで調整 / 設定できる基本の機能を説明します。

設定メニューを使って詳細に調整 / 設定する方法については2 [詳細な調整 / 設定 \[P. 8\]](#)を参照してください。

1.1 スイッチの操作方法

1. いずれかのスイッチに触れます（**⏻**を除く）。

画面に操作ガイドが表示されます。



参考

- 表示された操作ガイドに直接触れるのではなく、操作ガイドの下のスイッチに触れることで調整や設定をおこないます。

2. 調整 / 設定したいスイッチに触れます。

調整 / 設定メニューが表示されます。

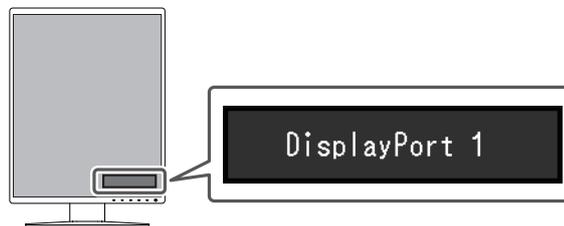
（サブメニューが表示される場合もあります。その場合は、**▲** **▼**で調整 / 設定したい項目を選択し、**✓**を選択します。）

3. 各スイッチで調整 / 設定し、**✓**を選択して確定します。
4. **✕**を選択してメニューを終了します。

1.2 入力信号を切り替える

モニターに複数の信号を入力している場合、画面に表示する信号を切り替えることができます。

1. を選択します。
設定メニューが表示されます。
2. 設定メニューの「本体設定」を選択し、を選択します。
3. 「入力」を選択し、を選択します。
4. またはで「DisplayPort 1」 / 「DisplayPort 2」 / 「DVI」のいずれかを選択し、を選択します。
設定が完了すると、入力ポート名が表示されます。

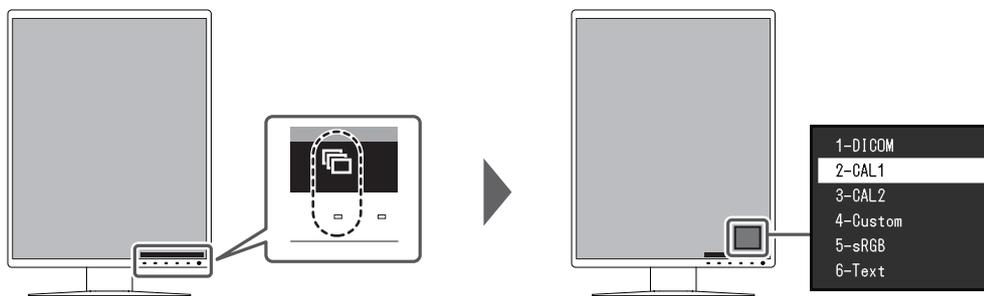


注意点

- 主電源を切り、再度電源を入れた場合は、設定内容に関係なく信号が自動で検出されます。
- 「入力自動検出」が「オン」の場合は、設定した信号のコンピュータが省電力モードに入ったり、電源が切れたりすると、自動的に他の信号を表示します（[入力自動検出 \[P. 16\]](#)参照）。
- 親画面に表示する信号によって、子画面に表示できる信号が異なります。親画面の入力信号を変更することで「PinP表示」が「オフ」になる場合があります（[PinP \[P. 18\]](#)参照）。

1.3 表示モード（CAL Switch Mode）を切り替える

モニターの用途に応じた表示モードに切り替えることができます。



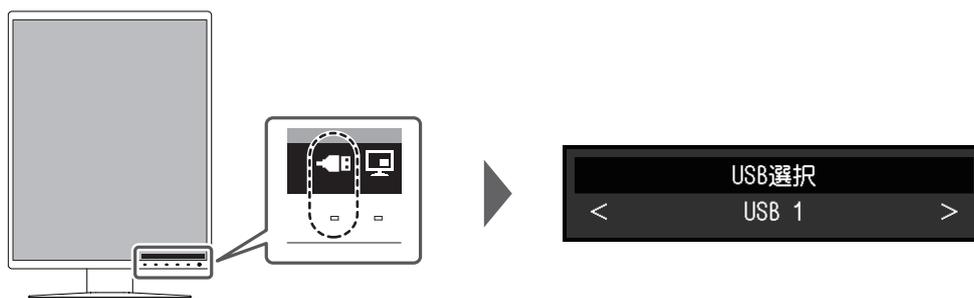
1.3.1 CAL Switch Modeの種類

○：キャリブレーション可能

モード	目的	
1-DICOM	DICOM® Part 14 に準拠している階調特性で表示することができます。	○
2-CAL1	キャリブレーションソフトウェアによる調整状態で表示します。	○
3-CAL2		○
4-Custom	好みに応じた設定をおこなう際に選択します。	—
5-sRGB	sRGB対応の周辺機器と色を合わせる場合に適しています。	—
6-Text	文書作成や表計算などの文字表示に適しています。	—

1.4 USBデバイス进行操作するコンピュータを切り替える

モニターのUSBダウンストリームポートに接続したマウスやキーボードなどのUSB周辺機器を操作するコンピュータを選択します。



- 「USB 1」
USB-B 1 (🔌) に接続しているコンピュータが選択されます。
- 「USB 2」
USB-B 2 (🔌) に接続しているコンピュータが選択されます。

注意点

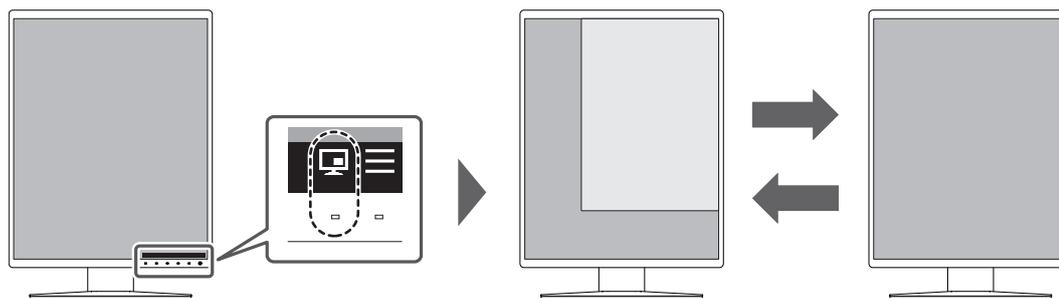
- 初期設定では  は表示されません。表示させるには設定を変更する必要があります。詳細は、[USB選択 \[P. 18\]](#)を参照してください。
- USBアップストリームポートを切り替えると、USB信号が一時的に切断されます。モニターにUSBメモリーなどの記憶装置を接続している場合、記憶装置を取り外してから切り替えてください。
- モニターの品質管理をおこなうコンピュータはUSB-B 1 () に接続してください。

参考

- RadiCS / RadiCS LEを使用することで、入力信号の切り替えやマウスカーソルの位置に連動してUSBデバイス进行操作するコンピュータを切り替えることができます (Switch-and-Go)。詳細はRadiCS / RadiCS LEの取扱説明書を参照してください。

1.5 PinP子画面の表示 / 非表示を切り替える

 を押すたびに、PinP子画面の表示、非表示を切り替えることができます。

**注意点**

- 初期設定では  は表示されません。表示させるには設定を変更する必要があります。詳細は、[PinP - PinP表示 \[P. 18\]](#)を参照してください。

2 詳細な調整 / 設定

この章では、設定メニューを使ってモニターを詳細に調整 / 設定する方法を説明します。
基本的な機能については、1 基本の調整 / 設定 [P. 4]を参照してください。

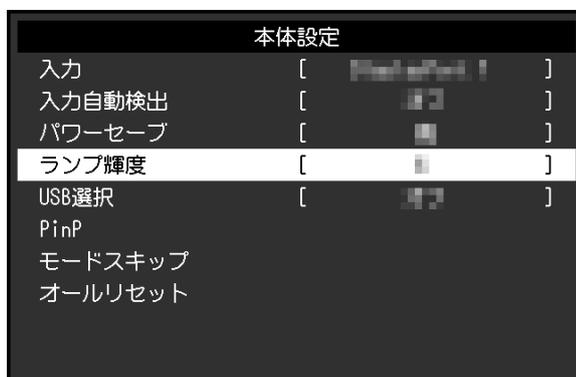
2.1 設定メニューの基本操作方法

1. いずれかのスイッチに触れます（を除く）。
操作ガイドが表示されます。
2. を選択します。
設定メニューが表示されます。
3.  で、調整 / 設定したいメニューを選択し、を選択します。



サブメニューが表示されます。

4.  で、調整 / 設定したい項目を選択し、を選択します。



調整 / 設定メニューが表示されます。

5.  または \leftarrow \rightarrow で、調整 / 設定し、を選択して確定します。
調整 / 設定中に \times を選択すると、調整 / 設定を中止して変更前の状態に戻ります。



6. \times を数回選択すると、設定メニューが終了します。

2.2 設定メニューの各機能

2.2.1 CAL Switch Mode

モードの設定状態を、お好みに合わせて調整できます。調整した設定状態はモードごとに保存されます。

- DICOM / CAL1 / CAL2



- Custom / sRGB / Text



調整できる機能は、モードにより異なります。

○：調整可 —：調整不可

機能名	CAL Switch Mode					
	1-DICOM	2-CAL1	3-CAL2	4-Custom	5-sRGB	6-Text
Hybrid Gamma PXL	○	○	○	—	—	—
ブライトネス	—	—	—	○	○	○
コントラスト	—	—	—	○	○	○
色温度	—	—	—	○	○	○
ガンマ	—	—	—	○	○	○
色合い	—	—	—	○	○	○
色の濃さ	—	—	—	○	○	○
ゲイン	—	—	—	○	○	○
リセット	○	○	○	○	○	○

注意点

- 品質管理のための各種試験やキャリブレーション、モニターの画面調整は電源を入れたあと、または省電力モードから復帰して15分以上経過してからおこなってください。
- モニターにはそれぞれ個体差があるため、複数台を並べると同じ画像でも異なる色に見える場合があります。複数台の色味を近づけるには、次の手順で調整してください。
 1. それぞれのモニターに白い画面を表示する。
 2. いずれか1台のモニターを基準に視覚的に判断しながら、「ブライトネス」「色温度」「ゲイン」を微調整する。

参考

- 「ブライトネス」、「色温度」表示は調整の目安としてご利用ください。

モード

設定値：「1-DICOM」 / 「2-CAL1」 / 「3-CAL2」 / 「4-Custom」 / 「5-sRGB」 / 「6-Text」

モニターの用途に応じた表示モードに切り替えます。

モードの設定状態はお好みに合わせて、調整することもできます。調整するモードを選択し、各機能で調整してください。

Hybrid Gamma PXL

設定値：「オン」 / 「オフ」

Hybrid Gamma PXL機能を有効にすることで、同一画面内のモノクロとカラーをピクセルごとに自動的に判別し、カラー画像に対してカラー画像表示用のガンマ値で表示することができます。

ブライトネス

設定値：「0%」～「100%」

バックライト（液晶パネル背面の光源）の明るさを変化させて、画面の明るさを調整します。

参考

- ブライトネスが0%でも画面が明るいと感じた場合は、コントラスト調整をおこなってください。

コントラスト

設定値：「0%」～「100%」

ビデオ信号のレベルを変化させて、画面の明るさを調整します。

参考

- ・ コントラストを100%にした場合に、すべての色階調が表示されます。
- ・ 画面の明るさは、初めに、階調特性を損なうことのないブライトネスで調整することをお勧めします。
- ・ コントラスト調整は次のような場合に使用してください。
 - ブライトネスが0%でも画面が明るいと感じたとき。

色温度

設定値：「Native」 / 「6000 K」～「15000 K」（100 K単位） / 「sRGB」

色温度を調整します。

通常「白」または「黒」の色合いを数値的に表現するときに用いられるもので、K：Kelvin（ケルビン）という単位で表します。

炎の温度と同様に、画面は色温度が低いと赤っぽく表示され、高いと青っぽく表示されます。また、色温度の設定値ごとにゲインのプリセット値が設定されています。

参考

- ・ 「K」表示は調整の目安としてご利用ください。
- ・ 「ゲイン」でさらに詳細な調整が可能です（[ゲイン \[P. 12\]](#)参照）。
- ・ 「Native」で液晶パネル本来の色（ゲインの値はRGB各100%）になります。
- ・ ゲインの値を変更すると、色温度は「User」になります。

ガンマ

設定値：「1.6」～「2.7」 / 「sRGB」

ガンマ値を調整します。モニターは入力信号のビデオレベルによって明るさが変化しますが、この変化率は入力信号と単純な比例関係にありません。そのため入力信号と明るさの関係が一定の関係になるよう制御をおこなうことをガンマ補正といいます。

色合い

設定値：「-100」～「100」

色合いを調整します。

注意点

- ・ この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。

色の濃さ

設定値：「-100」～「100」

色の濃さを調整します。

注意点

- ・ この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。

参考

- 最小値 (-100) で白黒の画面となります。

ゲイン

設定値：「0%」～「100%」

色を構成する赤、緑、青のそれぞれの明るさをゲインと呼びます。これを調整することで、「白」の色調を変更することができます。

注意点

- この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。

参考

- 色温度の値に応じてゲインの値が変わります。
- ゲインの値を変更すると、色温度は「User」になります。

リセット

現在選択しているモードのカラー調整値を初期設定に戻します。

2.2.2 RadiCS SelfQC

この製品は、Integrated Front Sensor（キャリブレーションセンサー）を内蔵しています。Integrated Front Sensorを使って、モニター品質管理（キャリブレーションや階調チェック）をモニター単独で実行することができます。



参考

- 付属のRadiCS LEのスケジュール機能を使用することで、キャリブレーションを定期的におこなうことができます。設定方法の詳細は、RadiCS LEの取扱説明書（CD-ROM内）を参照してください。
- RadiCSを使用すると、キャリブレーションのスケジュール設定に加え、階調チェックのスケジュール設定をおこなうことができます。設定方法の詳細は、RadiCSの取扱説明書を参照してください。
- 医療規格 / ガイドラインに対応した高度な品質管理をおこないたい場合には、別売のモニター品質管理ソフトウェアキット「RadiCS UX2」を使用してください。
- 内蔵キャリブレーションセンサー（Integrated Front Sensor）と別売りの外付けセンサーの測定結果を同等にするためには、RadiCS（別売オプション） / RadiCS LE（付属）を使用してIntegrated Front Sensorと外付けセンサーの相関取り（コレレーション）を実行してください。定期的なコレレーションにより、Integrated Front Sensorは外付けセンサーと同等の測定結果を維持することができます。コレレーションに関する詳細は、RadiCS / RadiCS LE取扱説明書を参照してください。

SelfCalibration

SelfCalibrationを実行し、最新の結果を閲覧できます。



SelfCalibration - 実行

SelfCalibrationを実行します。

注意点

- SelfCalibration実行中にコンピュータの電源が切られる、または入力信号が切り替わった場合、実行がキャンセルされます。
- SelfCalibration実行後は、実際の使用環境と同じ室温や照度で階調チェックを実行してください。

参考

- RadiCS / RadiCS LEを使用することで、次の項目を設定することができます。設定方法の詳細は、RadiCS / RadiCS LEの取扱説明書を参照してください。
 - キャリブレーションの調整目標
 - SelfCalibrationのスケジュール
 - RadiCS / RadiCS LEでスケジュールを設定した場合は、次回の実行スケジュールが表示されます。
- キャリブレーションの調整目標値は、設定メニューの「CAL Switch Mode」で対象のモードを選択することで確認できます。

SelfCalibration - 結果閲覧

設定値：「DICOM」 / 「CAL1」 / 「CAL2」

選択したモードのSelfCalibrationの実行結果（最大エラー率、前回実行日、エラーコードなど）が表示されます。

注意点

- 「QC履歴表示」を「オン」に設定した場合に確認できます（[設定 - 警告表示 \[P. 16\]](#)、[設定 - QC履歴表示 \[P. 16\]](#)参照）。

階調チェック

階調チェックを実行し、最新の結果を閲覧できます。また、RadiCSでスケジュールを設定した場合には、次回の実行スケジュールを表示します。

**階調チェック - 実行**

階調チェックを実行します。

注意点

- 実際の使用環境と同じ温度や照度で階調チェックを実行してください。

参考

- ・ 階調チェックの判定値は、RadiCSから設定することができます。詳細は、RadiCSの取扱説明書を参照してください。
- ・ RadiCSを使用することで、階調チェックのスケジュールを設定することができます。設定方法の詳細は、RadiCSの取扱説明書を参照してください。RadiCSでスケジュールを設定した場合は、次回の実行スケジュールが表示されます。

階調チェック - 結果閲覧

設定値：「DICOM」 / 「CAL1」 / 「CAL2」

選択したモードの過去5回までの実行結果（合格 / 不合格 / 中止 / エラー）が表示されます。

注意点

- ・ 「QC履歴表示」を「オン」に設定した場合に確認できます。

LEA



LEA - 測定時期

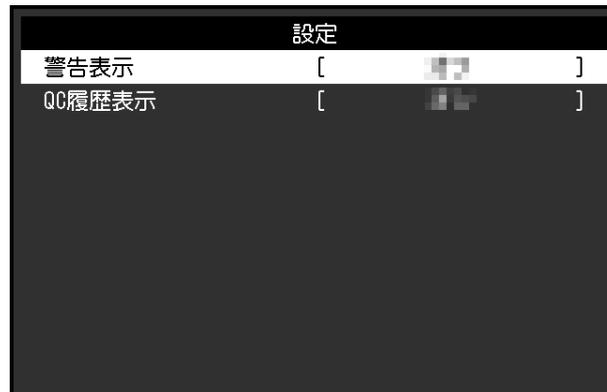
設定値：「パワーセーブ」 / 「定期測定」 / 「オフ」

モニターの寿命を予測するのに必要なデータを取得することができます。取得したデータに基づく寿命予測は、RadiCS / RadiCS LEで確認することができます。

参考

- ・ データは100時間ごとに収集されます。
- ・ 「パワーセーブ」を選択した場合、100時間経過後、パワーセーブに移行するとき、または電源が切れるときにデータが収集されます。
- ・ 「定期測定」または「パワーセーブ」を選択した場合、データ収集時にIntegrated Front Sensorが稼働して測定をおこないます。「オフ」を選択した場合は、データ収集時にIntegrated Front Sensorを使った測定はおこないません。
- ・ 次のタイミングでデータが保存されます。
 - 500、1000、2000、4000、7000、10000、15000、20000、25000、30000 時間

設定



設定 - 警告表示

設定値：「オン」 / 「オフ」

この機能を「オン」に設定すると、階調チェックの結果がNGだった場合に警告を表示します。

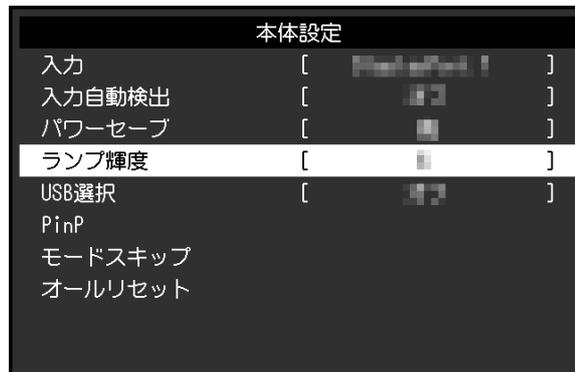
設定 - QC履歴表示

設定値：「オン」 / 「オフ」

この機能を「オン」に設定すると、SelfCalibrationや階調チェックの実行結果（QC履歴表示）を表示します。

2.2.3 本体設定

使用環境やお好みに合わせて、モニター本体の設定をおこないます。



入力

設定値：「DisplayPort 1」 / 「DisplayPort 2」 / 「DVI」

画面に表示する入力信号を選択することができます（[1.2 入力信号を切り替える \[P. 5\]](#)参照）。

入力自動検出

設定値：「オン」 / 「オフ」

信号が入力されているコネクタを自動で判別し、画面に表示することができます。

- ・ オン
信号が入力されているコネクタを自動で判別し、画面に表示します。
複数のコンピュータを接続している場合に、画面に表示しているコンピュータが省電力モードに入ったり電源が切れたりすると、自動的に他の信号を表示します。
- ・ オフ
入力信号の選択を手動でおこなう場合、この設定にします。入力信号を切り替える場合は、[1.2 入力信号を切り替える \[P. 5\]](#)を参照してください。

参考

- ・ 主電源を切り、再度電源を入れた場合は、設定内容に関係なく信号が自動で検出されます。

パワーセーブ

設定値：「高」 / 「低」 / 「オフ」

コンピュータの状態と連動してモニターをパワーセーブモードにする、しないの設定をすることができます。

- ・ 高
バックライトを消します。最も省電力効果が高くなります。
- ・ 低
バックライト最小点灯状態にします。パワーセーブから復帰した後、動作が安定するまでの時間を短くすることができます。
- ・ オフ
パワーセーブモードに移行しません。コンピュータの状態に関わらずバックライトが点灯しているため、バックライトの寿命を短くする可能性があります。

参考

- ・ モニターを使用しないときは、主電源を切るか、電源プラグを抜くことで電力が消費されなくなります。
- ・ モニターがパワーセーブモードの場合、またはモニターの電源スイッチ () で電源を切った場合でも、USBアップストリームポートおよびUSBダウンストリームポートに接続されている機器は動作します。そのためモニターの消費電力は、パワーセーブモードであっても接続される機器によって変化します。
- ・ コンピュータから信号が入力されなくなったことを検出すると、パワーセーブモードへの移行をお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されてから5秒後にパワーセーブモードに入ります。
- ・ パワーセーブを「高」または「低」に設定しているときはモニターの状態を電源スイッチのランプの色で確認できます。
 - 電源ランプが緑色：モニターは通常動作モード
 - 電源ランプが橙色：モニターはパワーセーブモード

ランプ輝度

設定値：「1」～「7」 / 「オフ」

画面表示時の電源スイッチのランプ（緑）の明るさを設定することができます。値が大きいほど電源ランプは明るく点灯し、小さいほど暗くなります。「オフ」では電源スイッチのランプは消灯した状態です。

USB選択

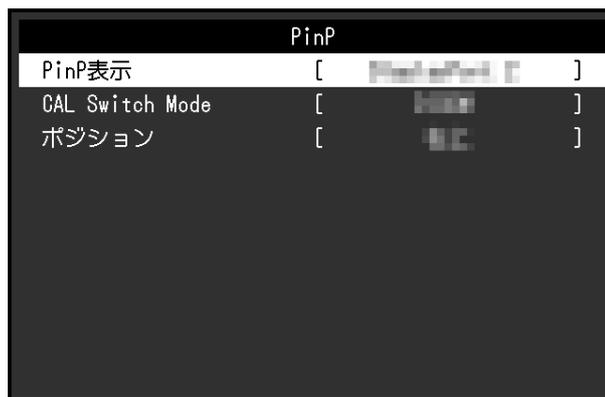
設定値：「オン」 / 「オフ」

操作ガイドにUSB切り替えアイコン（）を表示する、しないを設定することができます。

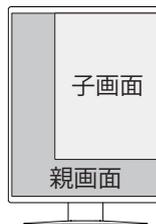
「オン」を選択すると、操作ガイドにUSB切り替えアイコンが表示されます。

注意点

- ・「オフ」に設定すると、「USB 2」を選択中であっても「USB 1」に接続中のコンピュータが有効になります。

PinP

表示イメージ

**PinP - PinP表示**

設定値：「オフ」 / 「DisplayPort 2」 / 「DVI」

画面に表示するPinP子画面の入力信号を選択します。この機能を「オフ」に設定すると、PinP子画面は表示されません。

参考

- DVI信号を1画面表示している場合、この機能は使用できません（グレーの文字で表示されます）。
- PinP子画面は、医用画像を表示する用途には適していません。医用画像は、PinP親画面に表示してください。
- この機能を「オフ」以外に設定すると、操作ガイドにが表示されます。操作スイッチ（）に触れると、PinP子画面の表示 / 非表示が切り替わります。
- RadiCS / RadiCS LEを使用することで、PinP子画面の表示、非表示をマウスやキーボード操作でより簡単におこなうことができます（Hide-and-Seek）。詳細は、RadiCS / RadiCS LEの取扱説明書を参照してください。

PinP - CAL Switch Mode

設定値：「DICOM」 / 「CAL1」 / 「CAL2」 / 「Custom」 / 「sRGB」 / 「Text」

PinP子画面の表示モードを選択します。

PinP - ポジション

設定値：「右上」 / 「右下」 / 「左下」 / 「左上」

PinP子画面の表示位置を選択します。

モードスキップ

表示モードを選択するときに、特定のモードをスキップすることができます。

表示するモードを限定したい場合や、表示状態をむやみに変更したくない場合にご利用ください。

注意点

- すべてのモードを無効（スキップ）にすることはできません。1つ以上のモードを「-」に設定してください。

オールリセット

次の設定を除く、すべての設定内容を初期設定に戻します。

- 「PinP」の設定
- 「管理者設定」メニュー内の設定

注意点

- リセット実行後は、リセット前の状態に戻すことはできません。

参考

- 初期値については、[5.3 主な初期設定値 \[P. 32\]](#)を参照してください。

2.2.4 言語選択

設定値：「英語」 / 「ドイツ語」 / 「フランス語」 / 「スペイン語」 / 「イタリア語」 / 「スウェーデン語」 / 「日本語」 / 「簡体中国語」 / 「繁体中国語」
メニューやメッセージの表示言語を選択することができます。



2.2.5 インフォメーション

モニターの情報（製品名、製造番号（S/N）、ファームウェアバージョン、使用時間）と、入力信号の情報を確認できます。

資産管理番号は、RadiCS / RadiCS LEで設定した場合にのみ表示されます。

例：

・ 1画面表示



・ PinP表示



注意点

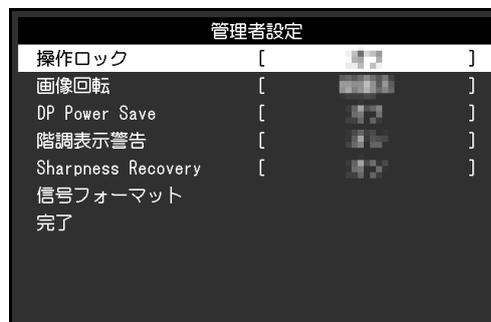
- ・ 工場での検査などのため、購入時に使用時間が「0」ではない場合があります。

3 管理者向け設定

この章では、「管理者設定」メニューを使ってモニターの動作を設定する方法を説明します。

3.1 「管理者設定」メニューの基本操作方法

1. に触れ、モニターの電源を切ります。
2. 一番左側のスイッチ に触れながら に2秒以上触れてモニターの電源を入れます。
「管理者設定」メニューが表示されます。
3.  で、設定したい項目を選択し、を選択します。



調整 / 設定メニューが表示されます。

4.  または  で、調整 / 設定し、を選択します。



5. 「管理者設定」メニューで「完了」を選択し、を選択します。
設定が確定し、「管理者設定」メニューが終了します。

3.2 「管理者設定」メニューの各機能

操作ロック

設定値：「オフ」 / 「メニュー」 / 「オール」

設定した状態を変更できないように、モニター前面の操作スイッチをロックすることができます。

- 「オフ」
すべてのスイッチが有効です。
- 「メニュー」
スイッチをロックします。
- 「オール」
電源スイッチを除くすべてのスイッチをロックします。

参考

- RadiCS / RadiCS LEでキャリブレーションを実行した後は、「メニュー」が選択された状態になります。

画像回転

設定値：「縦置き」 / 「横置き」

モニターの設置方向に合わせて、画像の表示方向を変更することができます。

DP Power Save

設定値：「オン」 / 「オフ」

コンピュータをDisplayPort™コネクタに接続している場合、パワーセーブモードであってもDisplayPortの通信が有効なため、消費電力が高くなります。「DP Power Save」を「オン」にすると、パワーセーブモード時の通信を無効にし、パワーセーブ時の消費電力をセーブすることができます。

注意点

- 「オン」を選択した場合、電源のオフ/オン時、およびパワーセーブモードからの復帰時に、ウィンドウやアイコンの位置がずれることがあります。その場合は、この機能を「オフ」に設定してください。

階調表示警告

設定値：「オン」 / 「オフ」

推奨解像度でDisplayPort信号を入力したときに、6bit（64階調）の信号が検知されたことを知らせる、階調表示エラーメッセージを表示するか、しないかを設定します。エラーメッセージが表示された場合は、モニターの主電源を入れ直してください。

注意点

- 通常は「オン」でご使用ください（出荷設定は「オン」です）。
- 6bit（64階調）で使用する場合のみ、「オフ」にしてください。

Sharpness Recovery

設定値：「オン」 / 「オフ」

Sharpness Recoveryを有効にすることで、鮮鋭度を向上させ、元画像をより忠実に再現することができます。

注意点

- 設定の切り替え後は、医療規格 / ガイドラインに基づいて目視検査を実施してください。

信号フォーマット - DisplayPort 1

設定値：「1.1」 / 「1.2」

DisplayPort 1 (DP1) のバージョンを設定することができます。

注意点

- デイジーチェーン接続する場合は、バージョンを「1.2」に設定してください。
- DisplayPortコネクタに接続している場合、コンピュータによってはDisplayPortのバージョンが異なり、画面が表示されないことがあります。その場合は、この設定を変更してみてください。

信号フォーマット - DVI

設定値：「高」 / 「低」

DVIのリフレッシュレート（画面更新の頻度）を設定します。ご使用の環境に合わせて設定してください。

4 こんなときは

4.1 画面が表示されない場合

電源スイッチのランプが点灯しない

- 電源コードは正しく接続されていますか。
- 左側の主電源スイッチを入れてください。
- ①に触れてください。
- 左側の主電源スイッチを切り、数分後にもう一度電源を入れてみてください。

電源スイッチのランプが点灯：緑色

- 設定メニューの「ブライトネス」、「コントラスト」、「ゲイン」の各調整値を上げてみてください（[CAL Switch Mode \[P. 9\]](#)参照）。
- 左側の主電源スイッチを切り、数分後にもう一度電源を入れてみてください。

電源スイッチのランプが点灯：橙色

- 入力信号を切り替えてみてください（[1.2 入力信号を切り替える \[P. 5\]](#)参照）。
- マウス、キーボードを操作してみてください。
- コンピュータの電源は入っていますか。
- 信号ケーブルが正しく接続されていますか。入力信号に「DisplayPort 1」を選択している場合は①に、「DisplayPort 2」を選択している場合は②に接続してください。②は、デジチーチェーン接続時の出力に使用します。
- 左側の主電源スイッチを切り、もう一度スイッチを入れてみてください。

電源スイッチのランプが点滅：橙色、緑色

- 当社指定の信号ケーブルで接続してください。その後、左側の主電源スイッチを切り、数分後にもう一度電源を入れてみてください。
- DisplayPort 1 (①) に接続している場合は、DisplayPortのバージョンを切り替えてみてください（[信号フォーマット - DisplayPort 1 \[P. 22\]](#)参照）。

画面に「入力信号無し」のメッセージが表示される

例：



DisplayPort 1
入力信号無し

- コンピュータによっては電源を入れても信号がすぐに出されないので、上のような画面が表示されることがあります。
- コンピュータの電源は入っていますか。
- 信号ケーブルが正しく接続されていますか。選択している入力信号のコネクタに信号ケーブルを接続してください。

- 入力信号を切り替えてみてください（1.2 入力信号を切り替える [P. 5]参照）。
- DisplayPort 1 (D₁) に接続している場合は、DisplayPortのバージョンを切り替えてみてください（信号フォーマット - DisplayPort 1 [P. 22]参照）。
- 信号ケーブルが正しく接続されていますか。DisplayPort信号を入力する場合、信号ケーブルがD₁またはD₂に接続されていますか。D₂は、デジチェーン接続時の出力に使用します。
- 左側の主電源スイッチを切り、もう一度スイッチを入れてみてください。

画面に「信号エラー」のメッセージが表示される

例：



- コンピュータの設定が、この製品で表示できる解像度、垂直走査周波数になっていますか（取扱説明書「対応解像度」参照）。
- コンピュータを再起動してみてください。
- グラフィックスボードのユーティリティなどで、適切な設定に変更してください。詳細はグラフィックスボードの取扱説明書を参照してください。

4.2 画面に関する症状

画面が明るすぎる / 暗すぎる

- 設定メニューの「ブライトネス」、「コントラスト」を調整してください（CAL Switch Mode [P. 9]参照）。液晶モニターのパックライトには、寿命があります。画面が暗くなったり、ちらついたりするようになったら、EIZOメンテナンスセンターにご相談ください。

文字がぼやけて見える

- コンピュータの設定が、この製品で表示できる解像度、垂直走査周波数になっていますか（取扱説明書「対応解像度」参照）。
- OSの拡大表示の設定を「100%」にしてみてください。複数のモニターを使用している場合は、すべてのモニターの拡大表示の設定を「100%」にしてみてください。

残像が現れる

- この現象は液晶パネルの特性であり、固定画面で長時間使用することをできるだけ避けることをお勧めします。
- 長時間同じ画像を表示する場合は、コンピュータのスクリーンセーバーまたはパワーセーブ機能を使用してください。
- 表示する画像によっては、短い時間でも残像が残ることがあります。その場合、画像を変更したり、数時間電源を切った状態にすると、解消されることがあります。

画面に緑、赤、青、白のドットが残る / 点灯しないドットが残る

- これらのドットが残るのは液晶パネルの特性であり、故障ではありません。

画面上に干渉縞が見られる / 液晶パネルを押した跡が消えない

- 画面全体に白い画像または黒い画像を表示してみてください。症状が解消されることがあります。

4.3 その他の症状

設定メニューが表示できない

- 操作スイッチのロックが機能していないか確認してみてください（[操作ロック \[P. 21\]](#)参照）。

モードメニューが表示できない

- 操作スイッチのロックが機能していないか確認してみてください（[操作ロック \[P. 21\]](#)参照）。

操作スイッチが効かない

- 操作スイッチのロックが機能していないか確認してみてください（[操作ロック \[P. 21\]](#)参照）。
- スイッチ表面に水滴や異物が付着していませんか。表面を軽くふき、乾いた手で再度スイッチに触れてみてください。
- 手袋を装着していませんか。手袋を外した、乾いた手で再度スイッチに触れてみてください。

モニターに接続しているUSB周辺機器が動作しない

- コンピュータとモニターのUSBアップストリームポートがUSBケーブルで正しく接続されていますか（[5.2 USBハブ機能の使用法 \[P. 30\]](#)参照）。
- 周辺機器がモニターのUSBダウンストリームポートに正しく接続されていますか（[5.2 USBハブ機能の使用法 \[P. 30\]](#)参照）。
- モニターの別のUSBダウンストリームポートに差し替えてみてください。
- USB Type-C®（以降USB-C®）コネクタは充電専用です。周辺機器は動作しません。
- コンピュータの別のUSBポートに差し替えてみてください。
- 周辺機器のデバイスドライバが最新であることを確認してください。
- コンピュータを再起動してみてください。
- 直接コンピュータと周辺機器を接続してみて、周辺機器が正しく動作した場合は、当社お客様相談窓口にお問い合わせください。
- Windowsコンピュータをご使用の場合、BIOS（UEFI）のUSBに関する設定をご確認ください（詳細はコンピュータの取扱説明書を参照してください）。
- コンピュータのOSが最新であることを確認してください。

- macOS Ventura (13) をご使用の場合、USB接続時に表示される「アクセサリの接続を許可しますか？」のメッセージウィンドウで「許可」を選択してください。

Integrated Front Sensorが出たままになっている

- 主電源を切り、再度電源を入れてみてください。

RadiCSがモニターとの接続に失敗する

- USBケーブルが抜けていないか確認してください。
- RadiCSで品質管理をおこなう場合は、[図1](#)に接続してください。
「USB選択」が「オン」の場合は「USB 1」を選択してください。

SelfCalibration / 階調チェックに失敗する

- [4.4 エラーコード表 \[P. 27\]](#)を参照してください。
- エラーコード表にないコードが表示された場合は、販売店またはEIZOサポートにご相談ください。

注意点
<ul style="list-style-type: none"> • Integrated Front Sensorに触らないでください。

SelfCalibration / 階調チェックの履歴に時刻が正しく表示されない

- RadiCS / RadiCS LEを使用して「モニター検出」を実行してください。詳細は、RadiCS / RadiCS LE取扱説明書を参照してください。

4.4 エラーコード表

エラーコード	詳細
****50	<ul style="list-style-type: none"> • 製品の最大輝度が目標輝度よりも低くなっている可能性があります。 • 目標輝度を下げてみてください。
****52	<ul style="list-style-type: none"> • 製品の最小輝度が目標最小輝度よりも高くなっている可能性があります。 • 目標最小輝度を上げてみてください。
****05	<ul style="list-style-type: none"> • センサーが正しく動作しなかった可能性があります。 • 主電源を切り、数分後に再度電源を入れてからSelfCalibration / 階調チェックをやり直してみてください。
****20 ****21	<ul style="list-style-type: none"> • センサーが正しく動作しなかった可能性があります。 • センサーの周囲に異物がないか確認してみてください。 • SelfCalibration / 階調チェックをやり直してみてください。

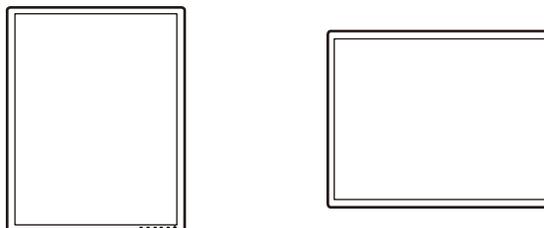
5 ご参考に

5.1 アーム取り付け方法

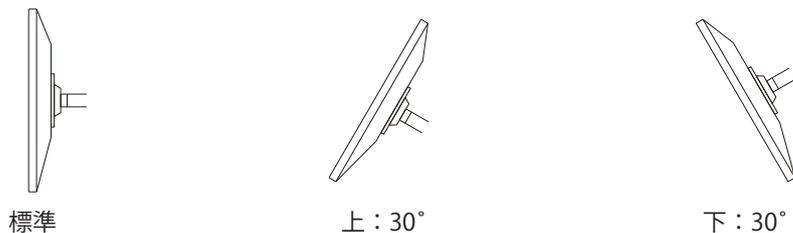
この製品はスタンド部分を取り外すことによって、他社製アーム（または他社製スタンド）に取り付けることができます。

アームまたはスタンド取り付け時の設置可能な方向および可動範囲（チルト角）は次のとおりです。

- 設置方向



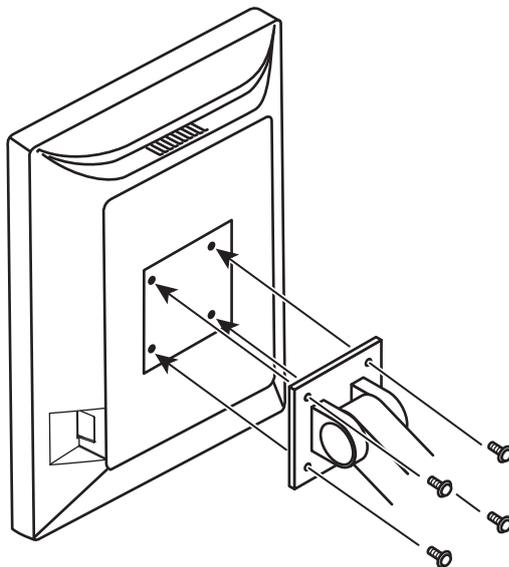
- 可動範囲（チルト角）



注意点

- 取り付けの際は、アームまたはスタンドの取扱説明書の指示に従ってください。
- 他社製のアームまたはスタンドを使用する場合は、次の点をアームまたはスタンドメーカーにご確認の上、VESA規格準拠のものを選択してください。
 - 取付部のねじ穴間隔：100 mm×100 mm
 - アームまたはスタンドのVESAマウント部外觀寸法：122.6 mm×122.6 mm以下
 - 許容質量：モニター本体の質量（スタンドなし）とケーブルなどの装着物の総質量に耐えられること
- 他社製のアームまたはスタンドを使用する場合、取り付けには次のねじをご使用ください。
 - 本体部分とスタンドを固定しているねじ
- ケーブル類は、アームまたはスタンドを取り付けた後に接続してください。
- 取り外したスタンドを昇降させないでください。モニター本体を取り付けていない状態でスタンドを昇降させると、けがや故障の原因となります。
- モニターおよびアームまたはスタンドは重いため、落としたりするとけがや故障の原因になります。
- 定期的になねじの締め付けを確認してください。締め付けが不十分な場合、モニターが外れ、けがや故障の原因となります。

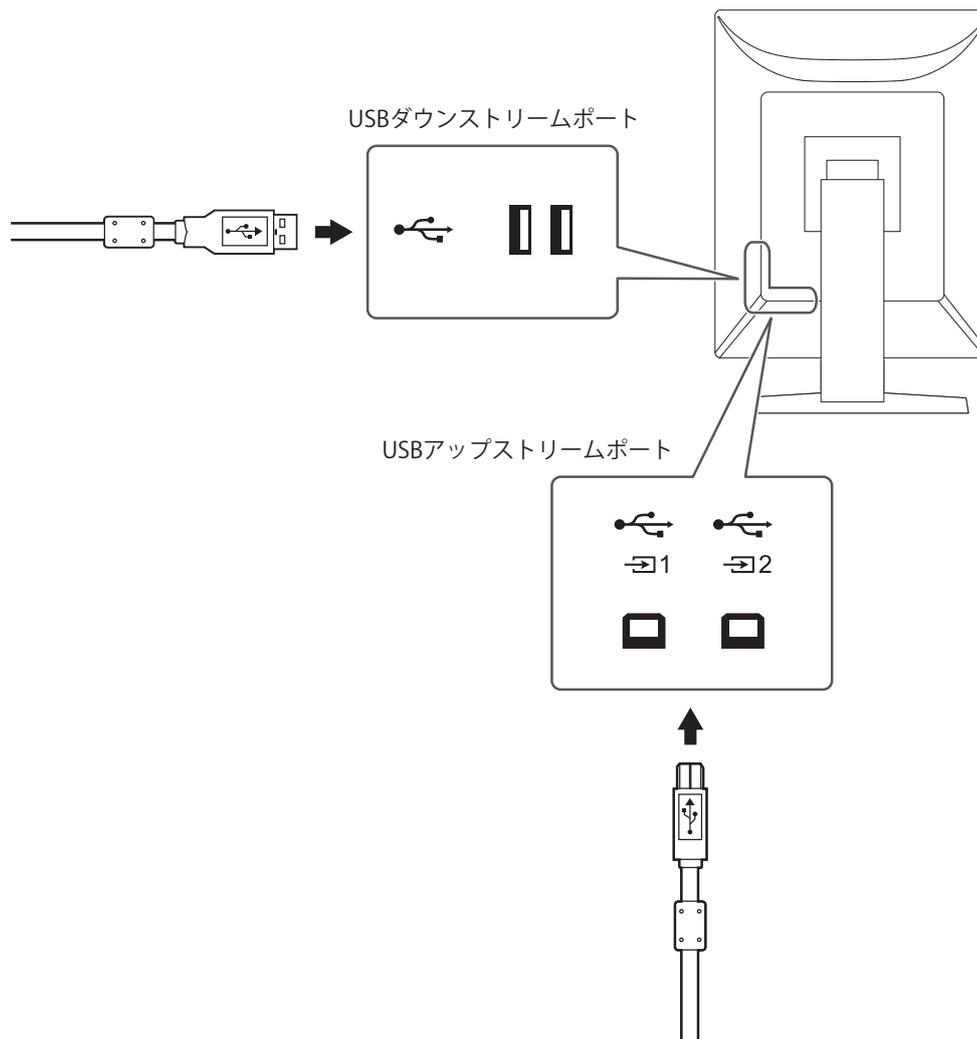
1. 液晶パネル面が傷つかないように、安定した場所に柔らかい布などを敷き、液晶パネル面を下に向けて置きます。
2. 別途ドライバを準備してください。ドライバを使って、本体部分とスタンドを固定しているねじ4箇所を取り外します。
3. 手順2で取り外したねじを使用して、アーム（またはスタンド）を取り付けます。



5.2 USBハブ機能の使用方法

この製品はUSBハブを搭載しています。USB対応のコンピュータまたはUSBハブを搭載した他のモニターに接続することにより、この製品がUSBハブとして機能し、USBに対応している周辺機器と接続できます。

1. コンピュータ（あるいはUSBハブ搭載モニター）のUSBダウンストリームポートとこの製品のUSBアップストリームポートをUSBケーブルで接続します。
2. USB対応の周辺機器をモニターのUSBダウンストリームポートに接続します。



注意点

- 主電源スイッチがオフの場合、USBダウンストリームポートに接続されている機器は動作しません。
- モニターの品質管理をおこなうためにRadiCS / RadiCS LEをインストールしたコンピュータは、1に接続してください。
- USB-Cコネクタは充電専用のため、USBハブとしては使用できません。

参考

- 出荷状態では、にキャップが付いています。を使用する場合は、キャップを外してください。
- 初期設定では、が有効です。2台のコンピュータを接続し、USBデバイス进行操作するコンピュータを切り替えて使用する場合は、[1.4 USBデバイス进行操作するコンピュータを切り替える \[P. 6\]](#)を参照してください。

5.3 主な初期設定値

5.3.1 CAL Switch Mode

工場出荷時の表示設定は「1-DICOM」です。

モード	輝度	色温度	ガンマ	Hybrid Gamma PXL
1-DICOM	500 cd/m ²	8000 K	DICOM GSDF	オフ
2-CAL1	400 cd/m ²	8000 K	2.2	オフ
3-CAL2	400 cd/m ²	8000 K	DICOM GSDF	オフ
4-Custom	約 300 cd/m ²	7500 K	2.2	- (無効)
5-sRGB	約 250 cd/m ²	sRGB	sRGB	- (無効)
6-Text	約 100 cd/m ²	6500 K	2.2	- (無効)

5.3.2 その他

LEA - 測定時期	パワーセーブ
設定 - 警告表示	オフ
設定 - QC履歴表示	オン
入力	DisplayPort 1 ^{※1}
入力自動検出	オフ
パワーセーブ	高
ランプ輝度	4
USB選択	オフ
PinP - PinP表示	オフ ^{※1}
PinP - CAL Switch Mode	DICOM
PinP - ポジション	右上
モードスキップ	- (すべて表示)
言語選択	日本語
操作ロック	オフ ^{※1}
画像回転	縦置き ^{※1}
DP Power Save	オフ ^{※1}
階調表示警告	オン ^{※1}
Sharpness Recovery	オン ^{※1}
信号フォーマット - DisplayPort 1	1.1 ^{※1}
信号フォーマット - DVI	低 ^{※1}
USB選択 ()	USB 1

※1 「オールリセット」 ([オールリセット \[P. 19\]](#)参照) を実行しても初期設定値には戻りません。

付録

商標

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interfaceという語、HDMIのトレードドレスおよびHDMIのロゴは、HDMI Licensing Administrator, Incの商標または登録商標です。

DisplayPort、DisplayPortコンプライアンスロゴ、VESAは、Video Electronics Standards Associationの米国およびその他の国における商標です。

SuperSpeed USB Trident LogoはUSB Implementers Forum, Inc.の登録商標です。



SuperSpeed USB Power Delivery Trident LogoはUSB Implementers Forum, Inc.の商標です。



USB Type-C、USB-CはUSB Implementers Forum, Incの登録商標です。

DICOMは、National Electrical Manufacturers Associationが所有する、医用情報のデジタル通信に関する規格の登録商標です。

Kensington、MicrosaverはACCO Brands Corporationの登録商標です。

ThunderboltはIntel Corporationの米国および/またはその他の国における商標です。

Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

AdobeはAdobe（アドビ）の米国およびその他の国における登録商標です。本書はAdobeの発行元であるAdobe（アドビ）によって承認、支持、または公表されたものではありません。

Apple、macOS、Mac OS、OS X、macOS Sierra、Macintosh、ColorSyncはApple Inc.の商標です。

ENERGY STARは米国環境保護庁の米国およびその他の国における登録商標です。

EIZO、EIZOロゴ、ColorEdge、CuratOR、DuraVision、FlexScan、FORIS、RadiCS、RadiForce、RadiNET、Raptor、ScreenManagerはEIZO株式会社の日本およびその他の国における登録商標です。

RadiLight、ScreenCleanerはEIZO株式会社の商標です。

その他の会社名、商品名およびロゴマークは所有者の商標または登録商標です。

ライセンス

この製品上で表示される文字には、リコーインダストリアルソリューションズ株式会社が制作したビットマップフォントを使用しています。

